

1996年 3月
多摩美術大学

上野泰郎

～多摩美術大学退職記念展～

●会 期 1996年5月8日(水)～6月8日(水)
午前10時～午後5時 ※休館日=日曜日
入場無料

●会 場 多摩美術大学附属美術館
東京都八王子市鎌水2-1723 (最寄駅=JR線/京王線 橋本駅)
※橋本駅北口より京王バス(中央大学行)にて多摩美大前下車

●主 催 多摩美術大学

《この展覧会に関するお問い合わせ先》

多摩美術大学日本画研究室

☎ 0426-76-8611 (代)

FAX 0426-76-2935

このたび「上野泰郎 — 多摩美術大学退職記念展 — 」を開催いたします。

上野泰郎氏は、1966年より多摩美術大学の日本画教室にて後進の指導に当たられました。その30年あまりの多摩美術大学での仕事を終えられ、今年大学を定年退職することを記念して、多摩美術大学附属美術館において作品展を行います。

出品作品の中にある「みずうみのほとり」は、東京美術学校（現東京芸術大学）の卒業制作であり、創造美術（創画会の前身）第1回の入選作でもあります。この作品によって作家としての第一歩を踏み出したともいえる記念すべき作品ですが、この作品にも見られるように学生時代より一貫して人物像、それも群像を多く描き続けています。上野泰郎は日本画の世界にあって、いわゆる花鳥風詠といった伝統的な日本画の様式ばかりではなく、日本人にあう絵の具を使って、現代に生きる日本人の心に訴えかけるものを追求してきた作家といえましょう。

上野泰郎の仕事にとって、決定的な出来事は、東方正教会の伝統に育まれてきた聖像画、イコンとの出会いでした。日本絵具と似た素材や金箔を扱いながら、無限の空間をもつという、高い精神性に強い共感を抱きました。そしてそこに内在するものを表すのには、日本画こそ適しているとの確信を深めていきました。

今回の展覧会では、初期の作品から祭壇画型式、屏風型式の大作にいたるまでの画業50年をふりかえりつつ、代表作約30点に加え、それらの制作を支えつづけた貴重なエスキース、下絵なども一堂に集めております。これらの作品を通して、必ずや見る人々に生きる勇気とよろこびを与えてくれることと思います。

上野泰郎 略歴

- 1926年 東京生まれ。
- 1948年 東京美術学校（東京芸術大学）日本画科卒業。
創造美術第1回展入選。以後毎年出品。
- 1951年 創造美術、新制作協会と合併。
- 1959年 会員推挙。
- 1960年 「現代日本美術展」出品。〔1968年まで〕
「日本画の新世代」展（東京国立近代美術館）出品。
- 1961年 「日本国際美術展」出品。〔1967年まで〕
- 1964年 「戦後の現代日本美術」展（神奈川県立近代美術館）出品。
- 1972年 「戦後日本美術の展開」展（東京国立近代美術館）出品。
- 1974年 新制作より分離し、創画会発足。
- 1981年 「現代日本美術の展望」展（富山県立近代美術館）出品。
- 1985年 「日本秀作美術展」（読売新聞社主催）出品。〔1996年まで〕
- 1988年 「日本画と現代」展（福島県立美術館）出品。
- 現在 創画会会員、多摩美術大学名誉教授。

主な作品所蔵美術館

東京国立近代美術館
諏訪市美術館
世田谷美術館
横浜美術館

神奈川県立近代美術館
広島市現代美術館
グッゲンハイム美術館
福島県立美術館